

災害と聖書の神—貧しい人・被災者は幸いである

2019年6月9日

神戸国際キリスト教会

牧師 岩村義雄

主題聖句: イザヤ 61章1節「主なる神の霊が私に臨んだ。主が私に油を注いだからである。苦しむ人に良い知らせを伝えるため 主が私を遣わされた。心の打ち砕かれた人を包み 捕らわれ人に自由を つながれている人に解放を告げるために」。

<序>

災害の実態

3.11から3000日を迎えました¹。宮城県石巻市だけでも4千人が災害の犠牲になりました²。石巻市は人口が県下で2位から3位に転落しそうです³。水産の都として国内でも突出した地でした。しかし、地震、津波からの復興は遅々として進みません。仕事もなく、高齢者による惣菜などの万引き件数が増えています⁴。飢えておられるのです。貧しいのです。苦しんでおられます。2018年末でも、2353件の被災者家屋は傾いたままです⁵。仮設住宅から復興住宅へ移動したものの孤独で泣いておられます。独居自死になんの手立てもできていません⁶。復興の谷間にいる人々に対して、無関心の寒気団が日本全体を陣取っています。人口減対策や地域活性化の担い手を志す人材は不足しています。つまり、東京などの都会との格差は大きく、構造的な危機に直面しています。

東京オリンピック、大阪万博や、コマーシャルに触発された裕福な生活を追い求める社会構造は、被災による失業や富から見離された絶望、貧困への配慮をしていません。

(1) 災害とは

災害(災い、災難、苦難)について、旧約では **רָעָה** ラア、**נֶגֶף** ネゲフ(7回)、**מַכָּה** マッカー(48回)、**הוֹרָה** ホーヴァー(3回)、**צָרָה** ツァーラー(71回)、**מִגְפָּה** マグゲファー(26回)などのヘブライ語があります。「**רָעָה** ラア」(悪)は旧約に345回出ています。創世記の「善悪の知識の木」は「**טוֹב** トーブ(良い)」と「ラア(悪い)」から成り立っています。「光を造り、闇を創造し 平和を造り、災いを創造する者。私は主、これらすべてを造る者である」という神の歴史に介入なさる在り方は、「平和(**שְׁלוֹם** シャローム)」と「災い(ラア)」を創造[ヘブライ語 **בָּרָא** バラー]なさいます。(イザヤ45:7)。

神が「災い」をもたらす方とは一般にはすんなりと受け容れられていません。むしろ人類を苦しめ

¹ 『石巻かほく』(2019年5月31日付)。

² 『石巻日日新聞』(2011年9月11日付)。

³ 同 (2019年1月23日付)。

⁴ 拙稿 季刊誌『支縁』No.13 (2015年11月3日号4頁)。

⁵ 『NHK』(2019年1月24日7時40分放送)。

⁶ 『朝日新聞』(2019年3月11日付)。見出し“復興住宅での孤独死が急増 昨年68人、入居後に孤立か”。“被災3県、孤独死相次ぐ”『神戸新聞』(2019年3月11日付)。

てきた諸悪の根源はサタンと考えるのがキリスト教界でもあります⁷。本論は愛ある神の本質を否定しているのではありません。聖書は一貫して二元論ではないことに思いをはせていただきたいのです。ゾロアスター教などペルシアの宗教は善悪闘争の歴史の影響を受け、神とサタン、善と悪、光闇の対立の決着という終末論がいつの時代も世を風靡してきました⁸。しかし、最初から神に反逆する対抗馬のように悪魔がいたのではありません。「甚だ善かりき(トーブ)」通りでした。(創世記 1:31)。万事、神の御心のままに始まり、御心のままに神に戻るようになっていきます。

(2) イエスの宣教

a. 貧しい人々への福音

イエス・キリストは公生涯の冒頭で、「主の霊が私に臨んだ。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主が私に油を注がれたからである」と、「貧しい人」への福音を届けるために登場されました。(ルカ 4:18)。会堂で朗読されたイザヤ書の言葉について、文脈で、イエスは「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と明言されました(21 節)。つまり、福音とは、4 世紀以降の西方教会のように伝道して、洗礼を受け、信者数を増やすことが核心ではないです。むしろ神ご自身が卑しめられ、未信者のフィールドで自ら貧しい姿を示されました⁹。

なぜなら、神は「なお、低く下って天と地を御覧になる」と書かれているように、「低く」(ヘブライ語 שפלה シャフェール 《低める、沈める、落とす、へりくだるの意》)なられる方だからです¹⁰。(詩編 113:6 参照 出エジプト 3:8, イザヤ 31:4)。

キリストは、イザヤ書の「福音」(ヘブライ語 בשר ודם バサール)をまず「苦しむ人」(ヘブライ語 עָנָוアーナーヴ 《貧しい人》)の意 旧約に 25 回)に流し出すミニストリーを開始なさいました¹¹。

b. 「正義」と「秩序」

「貧しい層」に対して「支縁」することは、古今東西、キリスト教以外の宗教者、諸団体、古代オリエントの民族が施してきたことも聖書以外の記録に残っています¹²。

ただし聖書の神は、いささかちがいます。「正義」と「秩序」の関係が異なります。コンスタンティヌス帝[280 頃-337 年]が国教と定めて以降、キリスト教は地中海沿岸から拡がりました¹³。皇帝は「秩序」をもって、世界歴史において最長不倒の帝国を維持しました。「この民は唇で私を敬うがその心は私から遠く離れている。空しく私を崇め 人間の戒めを教えとして教えている」と「人間の戒め」=「秩序」を大切にします。(マルコ 7:6,7)。人様に迷惑をかけず、秩序正しく生きればよい

⁷ 『サタン:その正体と最後』(ハル・リンゼイ 松代幸太郎訳 いのちのことば社 1975 年)。

⁸ 『ゾロアスター教』(メアリー・ボイス 山本由美子訳 筑摩書房 1983 年 111 頁)。本書は、“ゾロアスター教との五世紀にわたる接触によって豊かになったユダヤ教からキリスト教が興った。”と論述。(本書 141 頁)。

⁹ 『荊冠の神学』(栗林輝夫 新教出版社 1991 年 359 頁)。

¹⁰ 『低きにくだる神』(左近淑(きよし) ヨルダン社 1980 年 40-44, 246-251 頁), 『釜ヶ崎と福音』(本田哲郎 岩波書店 2009 年 132-133 頁)。“「シャフェール」という動詞が出てきます。その活用形で分詞の形, 「ハンマシュビリー」です。……神の視座が低みにあることを明らかにしたのです。”

¹¹ 『産経新聞』(2017 年 1 月 23 日付)。「イエスが宣教したユダヤ教会堂を発見」の記事に, “日本のシナゴグ研究第一人者で, 聖公会神学院(東京都)などで講義する山野貴彦講師は, 「イエスは大都市とは一線を画し, 小さな村々を訪ね, とりわけ貧しい人々に目を向けた」とする。”

¹² 『アイヌの世界観』(山田孝子 講談社選書メチエ 1994 年 89 頁)。“災害や流行病から守ったり, 子供を養い育てるなどが良い行為として強調される。”

¹³ 拙稿『目録』誌 No.34 (2004 年 1,9 頁)参照。

のでしょうか。陰で不道徳，不正義，差別をしても許されるというのは正義ではありません¹⁴。神は一人ひとりに「正義」を求められます。

c. 政治と秩序

ローマ帝国より，千年以上前に，近隣の諸国からの脅威にさらされていたイスラエルは無秩序ではなく，強い王，指導者，君の支配を願いました。(サムエル上 8:20)。その結果，イスラエルには秩序が回復されました。やがて，一握りの支配者が，権力の保身に執着するあまり，力のない「弱い人，貧しい人」は溺れたままに放置されるようになりました(詩編 72:13, 82:4)¹⁵。「正義」より「秩序」を重んじる体制がよいとされてきたのです¹⁶。しかし，聖書の神は「秩序」の味方ではなく，「正義」をもって弱者，貧者の側に立つ方です。不公平，格差，差別が一向になくならない秩序社会に対して，「公正」と「正義」を求められました(詩編 99:4)¹⁷。

(3) 二元論ではない聖書的思惟

a. 災いをもたらす神

性急な結論を出さないために聖書は二元論ではないことに留意すべきです。「善」か「悪」，「混乱」か「秩序」，「平和」か「災い」のどちらかに神は常に組みすると単純に考えないようにしましょう¹⁸。ある時には神は「悪」を用いられます。(箴言 16:4)。混乱ではなく，「秩序」を評価される場合もあります(コリント上 14:33)。また，神は「災い」(ラア)をもたらされる神でもあります¹⁹。天変地異により大地をゆるがされました。「秩序」を重んじる体制をゆさぶられたのです。西暦 1 世紀においては，神殿は「秩序」の象徴でした。「その時，神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け，地震が起こり，岩が裂け」，と記されています(マタイ 27:51)。

b. 神の聖定

キリストの「ご意志」(ギリシア語 *θέλημα* セレイマ)は，天地創造の前から聖定されている神の計画です。世界で最も多くの人々が唱える「御心が行われますように」に調和して，地球，人類，被造物に対しての計画が成就されるように祈りましょう²⁰。(マタイ 6:10)。

神の目的が達成されるためには，不正な秩序，排他主義，優生思想は粉碎されなければなりません²¹。貧しい人が軽んじられる体制に目をつぶってお題目を唱えるだけではいけません。行動

¹⁴ 『裁かれるアウシュビッツ』(ハンナ・アーレント，ジェローム・コーン編 中山元訳 筑摩書房 2007 年 322 頁)。

¹⁵ 『旅人の時代に向かって』(渡辺英俊 新教出版社 2001 年 197 頁)。

¹⁶ 『平和とは何か』(W.ブルグマン 小友聡，宮寄薫訳 教文館 2018 年 196 頁)。

¹⁷ 『聖書が告げる社会正義』(ハーマン・ヘンドリックス 本田哲郎訳 新生社 1994 年 31,32 頁)。

¹⁸ 拙稿『目薬』誌 No.23 (2001 年 3,5 頁)参照。

¹⁹ 拙稿『目薬』誌 No.29 (2003 年 1,3-11 頁)参照。

²⁰ 『キリスト教哲学序論』(春名純人 教文館 2018 年 37 頁)。

“贖いの御業の目的は，単に個々の罪人を救うことではなく，世界(der wereld)を救うことであり，天にあるもの，地にあるもの，すべてのものを，唯一の頭の下に，再び有機的結合に回復することである(weder onder één hoofd te herstellen in hum organischen samenhang)と証言している。”

²¹ 『日本人の“ルーツ探し”百三十年の歴史をたどる』(小熊英二 洋泉社 MOOK 1998 年 1998 年 16 頁)。

“優生学という学問は，医学や栄養学によって民族をより良く改善していこうという考え方に基づいています。この「わが民族を改良する」という発想は，「劣等な民族を排除する」という方向につながっていきました。”

が祈りです²²。ファナティックな社会的革命ではない方法で、「その苦しみは喜びに変わる」ように刷新するための使命を私たちは委ねられました。(ヨハネ 16:20)。

c. 貧しい被災者は幸いである

災害によって貧しく、苦しく、貶められた人々こそ、神が優先的に選ばれる存在なのです。蔓延するいじめ、性差別²³、非正規労働者から抜け出せない格差不正で不公正な社会の中で、神は貧困から救い出されます。「苦しむ人(アーナーヴ)が地を受け継ぐ。彼らは豊かな平和を楽しむ」と約束されています²⁴。(詩編 37:11)。秩序を守ろうとする「悪しき者」、ヒエラルキーを大切にするキリスト教界の権力側に加担し、荘厳な会堂をもつ宗教施設の指導者は、「貧しい人」を“霊的に貧しい”と共同体、社会、被差別地域の隅に追いやります²⁵。しかし、神は「苦しむ人」を解放し、自由を享受できる平和を与えられます。

<結論>

イエスが神殿で、イザヤ 61 章 1 節を用いて、福音は「貧しい人」のもので宣言されました。その成就是ルカの福音書 6 章で究極の結論でしめくられました。「貧しい人々は、幸いである 神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである あなたがたは笑うようになる」(ルカ 6:20-21)²⁶。

自然災害によって苦しむ、貧しい、弱い被災者は救われます²⁷。神の御心の中心だからです。

稚拙な説教原稿を翌週、神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について翻訳家徳留由美氏、大阪大学院生博士後期課程の佐々木美和氏、事務局の土手ゆき子氏にも感謝します。

²² 『「新」キリスト教入門(1)』(新免 貢 燦葉出版社 2019 年 50-51 頁)。

²³ 『キリスト教と社会学の間』(村田充八 晃洋書房 2017 年 155-156 頁)。

²⁴ 拙論『詩篇 37 篇における死海写本とBHSの相違』(Asia Graduate School of Theology 1999 年 9 頁)。

²⁵ 『解放の神学』(G.グティエレス 関望, 山田経三訳 岩波書店 1985 年 290-291 頁)。“ブトーコスは、生きていくために必要なものを持たない者、物乞いを余儀なくされる哀れな者”。

²⁶ 『飢えの時代と富むキリスト者』(ロナルド・J・サイダー 御立英史訳 聖文舎 1989 年 78-79 頁)。

²⁷ 『反貧困の神』(ノルベルト・ローフリンク 大宮有博訳 キリスト新聞社 2010 年 74-77 頁)。